

H29 年度 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ 最終報告会の開催について

平成 30 年 1 月 20 日（土）に、インターンシップに興味を持つ企業・団体、学生、大学教職員等に対し、「実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ合同最終報告会」を開催した。

なお、徳島県と本事業の実践型インターンシップを取り入れた連携事業である『徳島県地域グローバル人材育成事業～トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース（COC+連携コース）』、ならびに『「四国の右下」ふるさと回帰促進事業（インターンシップ事業）』の取り組み報告も同時開催した。

(1) 日時

平成 30 年 1 月 20 日（土）12 時 45 分～17 時 45 分

(2) 場所

徳島大学常三島キャンパス 共通講義棟 6F 創成学習スタジオおよび 5 階各教室

(3) 参加者数（合計 166 名）

<内訳>

- ・報告者 : 86 人（受入企業：27 人、インターン生：51 人、ドン：8 人）
- ・一般企業/自治体 : 32 人（企業/団体：24 人、徳島県関係者：8 人）
- ・大学教職員 : 34 人（徳島大学教職員：24 人、その他大学教職員：10 人）
- ・一般学生 : 14 人

<実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ報告企業一覧>

分野	企業名
次世代技術関連分野	株式会社松本コンサルタント 港産業株式会社 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 大塚テクノ株式会社
地域医療・福祉関連分野	株式会社テレコメディア
6 次産業化関連分野	有限会社檜山農園
地域づくり・観光・ICT 関連分野	一般社団法人 Disport 一般社団法人徳島新聞社 徳島トヨタ自動車株式会社 株式会社 QLiP アール・エスホーム株式会社 徳島県赤十字血液センター 廣間組有限会社 株式会社ネオビエント

<徳島県との連携事業報告企業一覧>

事業名	企業名
徳島県地域グローバル人材育成事業 トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース （COC+連携コース）	市岡製菓株式会社 徳島港湾荷役株式会社 藤崎電機株式会社
「四国の右下」ふるさと回帰促進事業 （インターンシップ事業）	一般社団法人 Disport

(4) 実施内容

- 12：45-12：50 : 開会挨拶
- 12：50-12：55 : COC+事業説明
- 12：55-14：05 : 【第1部】ダイジェスト版活動報告（学生+企業）
- 14：20-15：25 : 【第2部】分科会形式での活動報告（学生）
- 15：40-16：45 : 【第3部】分科会形式での活動報告（企業）パネルディスカッション
- 16：55-17：25 : 分科会情報共有
- 17：25-17：40 : 講評・閉会挨拶

【第1部】ダイジェスト版報告

実践力養成型（寺子屋式）インターンシップに参加した学生ならびに受入担当者から、来場者に対し、プロジェクトの概要や成果について、3分間のダイジェスト報告を行った。



【第2部】学生報告

4つの会場に分かれ、各会場にて、学生からプロジェクトの取り組み内容や成果に関する詳細報告を行った。なお、連携事業の会場では、各事業担当者からの事業説明ならびに学生からの成果報告を行った。



【第3部】企業報告

4つの会場に分かれ、各会場にて、受入担当者らによるパネルディスカッションを行った。インターンシップ受入の効果やプロジェクト推進にあたっての留意点等についての議論がなされた。



(5) アンケート（自由記述欄一部抜粋）

【学生報告に対しての感想】

<受入企業担当者>

- ・学生が限られた時間で精一杯取り組んでいる様子がよく分かった。企業側が目的を明確にしないと納得できるゴールが得られないのもよく分かった。
- ・プロジェクトを進める中で様々な手法や考えのもと「よりよいものをつくりたい」という熱意を持ってやり遂げていたことが分かった。
- ・インターンで「したこと」だけの報告のチームもあり、インターンシップをしたことによって「どう変わったか」という部分がもっと深く知りたかった。
- ・企業ごとのカラーが現れた活動報告になったと思う。この報告でプロジェクトのチームビルディングの完成具合も感じとれるなあとと思った。

<他大学関係者>

- ・ミッションに対する理解度も高く、実践的な成果品を完成させている点は素晴らしい。

【企業報告（パネルディスカッション）に対しての感想】

<受入企業担当者>

- ・率直な意見が飛び交う、実りの多い内容だった。多種多様な団体が学生と友に悩み歩んできた成果を知り、勉強になった。
- ・参加者が自由に発言出来る雰囲気良かった。時間的に厳しい事は重々承知ですが、他の教室の話も聞いてみたかった。
- ・今回のようなディスカッションは来年度参加予定の企業にとって良い情報を聞く機会だったと思う。
- ・様々な企業の課題を知ることができて興味深かった。課題解決は単年でできるものではなく、単年で解決できるようなものは重要な課題ではないので、自社では長期的に取り組んでいきたい。

<一般企業>

- ・率直な意見交換ができていたと思う。キレイ事で終わらせず原因を探る所も良かったと思う。
- ・企業側の意見、裏話的な内容を聞くことができ非常に参考になった。またインターンを受け入れる事で企業側にも多くの効果（成果物だけでなく副次的効果も）があることがよく分かった。
- ・企業側の受入苦勞、困難さが伝わり良かった。社員を巻き込むことや最終ゴールを決めて取り組んでいく方がより良い成果をあげられることが分かった。

【実践力養成型インターンシップに取り組んでの感想】

<インターン生>

- ・このインターンは負担が大きい分、人と濃く、強く交わり、自分の考え方と違う考え方に触れる機会も多かったのも、とてもよかった。
- ・今回実際にプロジェクトに取り組むことによって、「思い」や「考え」だけでなく、それに伴う「行動」と「責任」がなければいけないと感じさせられた。それはこのインターンでできるようになったとは言えず、自分の今後の課題である。

- ・自分の考えていた社会人像と、インターンを通して見て感じた実際の社会人像がやはりギャップがあるのがわかった。その結果、自分がどのように社会人になる課程として行動及び思考していけばよいか分かった。
- ・正直、最初は自分がする意義がよく分からなかった。また、スマートに効率よくしようという気持ちがあり、これはプロジェクトを進める&チームビルディングで邪魔になった考えだった。“使命感”という感覚が分かり、そこから自分が得られるものの偉大さが分かってからは、しっかり取り組み今日に至ることができた。今回の経験は、本当に人生に大きな影響を与えるものになった。経験・得た物をしっかり言語化し、今後の人生に持って行きたいと思う。